

「家庭基礎」における道德的実践力の育成

—指導資料「赤ちゃんポスト」の活用と言語活動の工夫—

愛知県立豊橋商業高等学校 教諭 小島 佳世

1 はじめに

今次学習指導要領において、道德教育は学校の教育活動全体を通じて行うこととされている。各教科でもそれぞれの特質に応じて、適切な道德教育を行い、生徒の道德的実践力を育成することが求められている。家庭に関する科目には、道德の内容項目に関連する学習内容が多くある。例えば、「自分自身に関すること」については、自立、マナー、モラルなど、「他の人とのかかわり」については、家族に関すること、地域に関することなど、「集団や社会とのかかわり」については、消費者としての在り方、環境に配慮する消費行動などの学習内容がそれにあたる。それらの教科としての学習内容に道德の内容を意図的・計画的に含めていくことが課題となっている。

そこで、愛知県教育委員会が平成 25 年 3 月に発行した道德教育指導参考資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて—』の教材「赤ちゃんポスト」を家庭科の単元構想に組み込み、教科における道德教育を実践することとした。

2 生徒の実態

本校は、1 学年 4 学科 7 クラスの創立 107 年の伝統をもつ商業高校である。男女比は 1 : 4 となっており、女子生徒が多く在籍している。生徒は精神的に落ち着いており、素直で生き生きと高校生活を送っている。部活動では弓道部女子が今年度夏のインターハイにおいて 41 年ぶりの優勝を果たすとともに、電卓部においても個人の部で全国優勝するなど、学校をあげてその快挙を喜んでいる。その他の部活動も盛んで、毎年県大会、全国大会へと出場する部活動もある。ここ数年の進路状況は、60% 程度が就職、40% 程度が進学となっている。

本校は校訓「以信為本」（信を以って本と為す）を掲げ、国家及び社会の有為な形成者として、心身ともに健康で、知性にあふれ、時代の進展に対応できる教養と高い技術を備えた、「自主性に富み、信用・責任を重んずる人」「協調性に富み、礼節・勤労を重んずる人」「創造性に富み、真摯・実行を重んずる人」のような職業人の育成を図っている。また、生徒が「思いやりの心を育成する」ことを本年度の重点目標の一つとして、道德性・社会性の向上を実現するために教科、学年、分掌などの立場で取り組んでいる。就職、進学どちらの進路を選択するにせよ、本校在学中に社会生活に必要な道德性を養ったり人間としての在り方生き方を考えさせたりすることが必要である。

3 実践のねらい

第 3 学年で履修する家庭科「家庭基礎」（3 単位）の単元「保育と子どもの福祉」の中に、『明日を拓く』の教材「赤ちゃんポスト」を組み込んで道德の視点を含めた単元構想の工夫をすることにより、自他の生命を尊重する気持ちや、他の人を思いやる気持ちを高めるとともに、自分と異なる意見や考え方を大切にしようとする寛容の心と謙虚な態度を育むことをねらいとした。

4 実践の方法

(1) 対象と実施する時期

- ・第3学年，平成25年9月実施

(2) 教育課程上の位置付け

- ・家庭科「家庭基礎」の単元「保育と子どもの福祉」にて実施

(3) 『明日を拓く』から使用する教材

- ・第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」

教材「赤ちゃんポスト」は「赤ちゃんポスト」に関する2枚の新聞記事を基にしている。1枚の記事は、不妊症に悩む夫婦が乳児院で赤ちゃんとの出会い、「赤ちゃんポスト」から乳児院へ入所した経緯と子育て体験記，そして育てた子どもに出生を知らせることへの不安，最後に「赤ちゃんポスト」の必要性を訴える内容となっている。もう1枚の記事は、「赤ちゃんポスト」に預けられた子どもの身元探しと，赤ちゃんを預けた理由，「赤ちゃんポスト」を運営する側の意見が書かれた記事である。

この教材は「赤ちゃんポスト」の2枚の新聞記事を通して，里親の心情，「赤ちゃんポスト」の是非について知ることができ，命の尊さや他の人を思いやる気持ちについて改めて考えさせることができる効果的な教材である。

(4) 展開の工夫

新聞記事前半（『明日を拓く』p.93，本稿では「資料1」と記す）から，「赤ちゃんポスト」の存在と役割を知り，このポストに子どもを預ける母親の気持ちと，育ての親が子どもに事実を告知するときの気持ちについて，個々に考えさせる。

次に新聞記事後半（『明日を拓く』p.94，本稿では「資料2」と記す）から，「赤ちゃんポスト」の是非についてグループ討議と発表を行う。その過程で，いろいろな考え方や意見を尊重する姿勢を身に付けさせるとともに，他者の意見から自分の意見を深めることもできることを気付かせる。

授業展開を円滑にするためワークシート（資料3）を準備するとともに，生徒が積極的にグループ討議を行い発表ができるように，司会者用と記録（発表者）用のプリントを準備した。司会者用プリント（資料4）を読むことでグループ討議が進行できるようにし，司会者が討議内容を最後にまとめられるようにした。また，記録（発表者）用プリント（資料5）は，発表者がそのまま発表できるように記録欄を工夫した。

(5) アンケートによる生徒の意識の変化の把握

本単元の前後における生徒の意識変化を調査するために事前及び事後アンケートを実施した。事前アンケート（資料6）は本単元が始まる直前に実施し，事後アンケート（資料7）は今回の道徳授業実践後に実施した。

ア 事前アンケート

- (ア) 「命」についての意識
- (イ) 「生命尊重」についての意識
- (ウ) 「人間愛（人との関わり）」についての意識
- (エ) 「子どもに関する社会問題」についての意識

イ 事後アンケート

- (ア) 「命」についての意識の変化
- (イ) 「生命尊重」についての意識の変化

(ウ) 「人間愛（人との関わり）」についての意識の変化

(エ) グループ討議についての意識

5 本時の展開

1 教科・科目	家庭・家庭基礎（第3学年，3単位）
2 単元名	保育と子どもの福祉 教科書『家庭基礎 自立・共生・創造』（東京書籍） 指導資料『明日を拓く一人間としての在り方生き方を求めて－』（愛知県教育委員会）第2章第3節 社会と関わる「赤ちゃんポスト」

3 単元の目標

【教科の視点】

- ・乳幼児が心身ともに健やかに成長するためには，親としての自覚と責任を持ち，愛情をもって子どもを産み育てることが必要であることを理解する。
- ・乳幼児が健やかに発達するために必要な子育て環境の整備において，親や家族，地域や社会が果たすべき役割について理解する。

【道徳の視点】

- ・命はかけがえのないものであることを理解し，命の尊さについて考えることができる。
- ・人は他の人とのかかわりの中で生きることを理解し，思いやりの心をもつことができる。
- ・いろいろなものの見方や考え方があつることを理解し，他の人に学ぶことができる。

4 単元の指導計画（全10時間）※1時間：50分

配当時間	指導内容
1次（1時間）	子どもの触れ合いから学ぶ
2次（3時間）	子どもの育つ力
3次（4時間）	親としてともに育つ
4次（2時間）	健やかに育つ環境づくり
※本時： 2時間目	・子どもの権利と社会福祉 ・子どもを守る社会の責任（本時）

5 本時の展開

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	参考
導入 (8分)	1 前時学習内容の復習	○前時の学習を振り返りながら，「生存権」に関する法律や条約について知らせる。	ワークシート1
	2 本時の目標と学習内容を知る。	○「赤ちゃんポスト」の〈ねらい〉を読み，本時の目標と学習内容を伝える。	〈ねらい〉

<p>展開 (12分)</p>	<p>1 母親や里親の気持ちを考える。</p>	<p>○「赤ちゃんポスト」について簡潔に説明し、新聞記事前半(資料1)を読ませる。 ○記事を読んだ感想をまとめさせる。(5分程度) ○母親や里親の事情や心情について、ワークシートに沿って考えさせる。</p>	<p><補足説明> ワークシート2(1) ワークシート2(2)</p>
<p>(20分)</p>	<p>2 赤ちゃんポストの是非について考える。 3 赤ちゃんポストの是非や在り方について、グループで話し合い、発表する。 4 グループでの話し合いと発表後の赤ちゃんポストについての自分の考えをまとめる。</p>	<p>○新聞記事後半(資料2)を読ませる。 ○赤ちゃんポストの是非について各自で考えさせる。(5分程度) ○グループでの話し合いの進め方、司会・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。 ○4～5名のグループに分け、司会と書記を決める。 ○各自で考えたことを基に、グループで話し合わせる。(10分程度) ○生徒の話し合いの様子を観察し、必要に応じて進行を支援するとともに、取り組みの様子を記録する。 ○グループ内で出た意見をグループの代表者に発表させる。</p>	<p>ワークシート2(3) <司会用資料> <記録用資料> ワークシート2(4)(5)</p>
<p>(5分)</p>	<p>5 自分自身が親となったとき子どもへの接し方について「命の尊厳」の視点から自由に記述する。</p>	<p>○グループでの話し合いやクラスの人々の発表を聞き、参考になった考え方や気持ちの変化などを自由に書かせる。</p>	<p>ワークシート3</p>
<p>終結 (5分)</p>	<p>1 本時のまとめ 2 自己評価</p>	<p>○「赤ちゃんポスト」の<まとめ>を読み、「命の尊厳」について考えさせる。 ○話し合いと発表について、良かった点を中心にコメントする。 ○本時の自己評価を記入させる。</p>	<p><まとめ> <自己評価></p>

6 学習活動と道徳の内容項目(中学校の分類による)との関連

- 命はかけがえのないものであることを理解し、命の尊さについて考えることができる。

3-(1) 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること(生命尊重)

- 人は他人とのかかわりの中で生きることを理解し、思いやりの心をもつことができる。

2-(2) 主として他の人とのかかわりに関すること(人間愛、思いやり)

- いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、他の人に学ぶことができる。

2-(5) 主として他の人とのかかわりに関すること(自他の尊重、謙虚、寛容の心)

7 留意事項

【グループでの話し合いについて】

- ・グループでの話し合いの前に、司会者・書記の役割及び配慮事項を全体に伝える。
- ・グループの司会者には、司会進行マニュアルを配付する。
- ・グループの記録係には、記録・発表用紙を配付する。
- ・グループの話し合いが進まない時は、教員が司会者をサポートする。
- ・自分と反対の意見であってもしっかり聞くことを伝える。

【話し合い（司会）の配慮事項】

- ・一つの結論にまとめようとしなない。
- ・意見の発表の仕方は、賛成か反対かの立場を伝えた上で、その理由を述べることとする。

【グループの代表者によるまとめ発表について】

- ・まとめ発表の型を示しておく。

「〇〇グループの発表をします。

賛成は〇人で、理由は・・・・・・などでした。

反対は△人で、理由は・・・・・・などでした。

また、・・・・・・などの意見や疑問点もありました。以上です。」

【「赤ちゃんポスト」の<ねらい><補足説明><まとめ>】

<ねらい>

熊本市のある病院が「このとりのゆりかご」という名称で赤ちゃんポストを開設しています。2011年9月までの5年間で、81名もの幼い命を受け入れてきましたが、赤ちゃんポストへの疑問の声も出ています。

今日は、赤ちゃんポストで預かった赤ちゃんを育てている里親に関する新聞記事を読んで、多様な視点から、赤ちゃんポストの是非やこれからの在り方について議論をしてもらいたいと思います。

<補足説明>

赤ちゃんポストとは、親が育てられない赤ちゃんを匿名で預けることができる窓口です。熊本市の慈恵病院が2007年5月10日に開設しました。2011年9月末までに男児40人、女児41人の計81人が預けられ、うち64人は生後1か月未満でした。障害のある子も8人いました。市によると、81人のうち、特別養子縁組や里親委託で新たな家庭で生活しているのは37人です。27人が施設に入所し、ほかは実の親らが育てるなどしています。

判明した親の居住地は、九州が26人、関東が18人、近畿、中部がそれぞれ8人でした。

<まとめ>

今回は、赤ちゃんポストの是非や今後の在り方について多様な視点から考えてもらいました。これまでとは違った立場からも命の大切さを捉え直すことができたのではないかと思います。グループでの話し合いや全体発表では、様々な意見を聞くことができました。この学習を通して、命の尊厳ということについて、皆さん一人一人が改めて深く考えてもらいたいと思います。

6 実践のまとめと考察

(1) 授業展開

ア 母親や里親の気持ちを考える

「資料1を読んであなたはどう思いましたか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の感想

- ・赤ちゃんポストに預けた理由は様々で、手放したくなくても金銭面の問題などで預ける人や軽い気持ちで「いらなから」という理由で預けた人などいると思う。手放したくなかつた人の気持ちは、計り知れないほどの悲しみと罪悪感があると思う。「いらなから」という理由の人の所でも子どもが育てられたとして虐待などされるようならポストへ預けた方が子どもにとってよいと思う。
- ・事情は、障害を持った子がいやだとか、育てる事が大変だとかいろいろあると思います。もちろん預けるお母さんも何も感じないとは思いません。辛いことだつたと思うし、こんなことをしている自分に情けないと思うと思います。ですが、突然赤ちゃんが生まれるわけではなく、ずっと前からわかつていたことだから、しっかり責任をもってほしいと思ひました。子は親を選べません。



【写真1】生徒の記述の様子

「子どもを手放す時の苦しみと預けた子どもが幸せになつてほしい」「命を救うという観点から、『赤ちゃんポスト』があつて良かった」と考える生徒が多かつた。その反面、親としての責任や子どもをつくることへの無計画さに対する批判も一部にはあつた。

「実の母親が『赤ちゃんポスト』に預けた時の事情と気持ちは、どのようなものだつたと思ひますか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の感想

- ・子どもを育てられない母親は、本当は絶対自分で育てていきたいと思ひていると思うので、預けた時とても悲しいと同時に自分の不甲斐ない感じ、人生で一番辛い気持ちになつたと思う。涙が止まらなかつたと思うと同時に、その赤ちゃんがいつか絶対に幸せになつて欲しいと願つたと思う。
- ・大きく分けて二つに分けられると思ひます。やむを得ずどうしても育てられないために預ける人は申し訳ない気持ちと、新しい環境で楽しく暮らしてほしいと考えます。自分には無理だからとか自分の都合で預ける人はやつと楽になるとか、結構投げやりな気持ちになつていると思ひます。

預けたときの事情は、「経済的理由」「障害者」「自分が病弱で育てられない」などの言葉が多く見られた。預ける時の気持ちについては、預ける親の心の葛藤が多く感想に見られた。

「里親がその子に血のつながりがなからを伝えるときには、どのような気持ちになつたと思ひますか」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあつた。

○生徒の記述

- ・子どものことをすごく傷つけてしまうと悲しい気持ちになると思います。ですが、真実を教えないことは、その子をだますような気持ちにもなってしまうので、こういうことは辛くても本当のことを言うことが大切だと思いました。血はつながっていなくても、それを乗り越えて本物の家族になることもできると思います。

里親の心情として、「複雑、不安、これまでの子育てに対して否定されてしまうのでは」という思いを抱きつつも、告知については「真実を伝える方がよい」と考えている生徒が多かった。血のつながりだけが家族とは言えず、家族とは何かを改めて考えさせられたようである。

イ 「赤ちゃんポスト」の是非について考える

「資料2を読み、あなたは『赤ちゃんポスト』の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあった。

○「賛成」とした生徒の記述

- ・匿名でなければ捨てられた命もあったかもしれないと思うと、赤ちゃんポストがあつてよかつたと思う。生まれて間もないのに、生みの親と幸せに生きる権利を失った赤ちゃんには、必ずもう一度幸せになる権利を与えられるべきだと思う。赤ちゃんポストは必要だと思う。

○「反対」とした生徒の記述

- ・産んでしまえば「赤ちゃんポスト」に預ければいいやという無責任な親も出てきてしまうと思います。子どもに罪はないのに、親に捨てられた、親が分からないという事実はとても辛いものであり、その後の成長にも大きく影響が出ると思います。里親の中には、子どもを持ちたくてもてず、養子が持ててうれしい家庭もあるかもしれないが、そのような家庭が捨てられた子どもの数だけあるとも思えないし、それらが子どもを捨てていい理由にはならないとわたしは思います。

資料1の新聞記事の内容に影響されたと見られる意見が多い。「匿名」という文字に惑わされている生徒が多いように感じた。

ウ 「赤ちゃんポスト」の是非や在り方について、グループで話し合い、発表する

グループ討議は1グループを4～5人程度とし司会者・記録者を指定したため、比較的取りかかりもよく主体的に討議に参加していた。自分とは異なる意見には真剣に耳を傾け、心を動かされるものがあったようだ。討議の展開が「命」を救うことに固執した傾向が見られ、安易な理由で結論を導き出しているグループもあった。司会者は**資料4**を活用した。

グループ討議の最後の1分で司会者にグループの意見をまとめさせたため、発表する生徒にとっては記録の確認ができ、発表を聞く生徒にとっても分かりやすかつたと思われる。また、反対意見が一人しかいなかった班では、発表者ではなく反対意見をもつ生徒本人が発表したところもあり、自分の考えをクラス全員に知ってもらいたいという熱意もうかがえた。記録と発表には**資料5**を活用させた。

また、グループ討議中において、話し合いがうまく進められない、話し合いの内容が分からない、質問があるなどの場合、適宜指導助言を行った。その具体的内容は次のとおりである。



【写真2】グループ討議後の発表

○「赤ちゃんポスト」の是非に関する教師の助言

- ・「資料2の内容だけで赤ちゃんポストの是非を判断するのか」という質問があったため、資料1や「赤ちゃんポスト」に関する説明も参考にし、様々な角度から考えるよう指示した。
- ・「赤ちゃんポスト」について「反対者はいるのか」という質問があったため、「賛否どちらもある」と説明した。

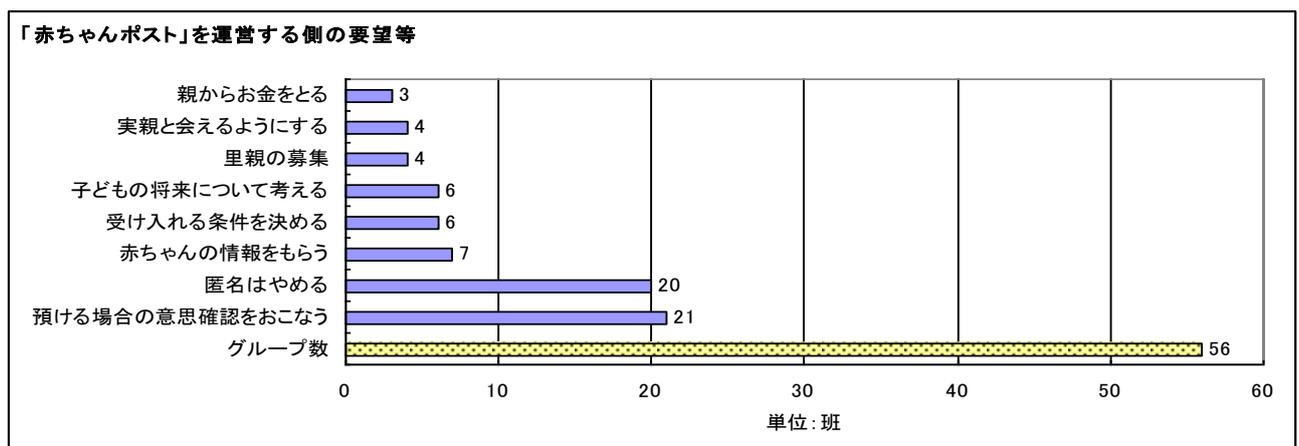
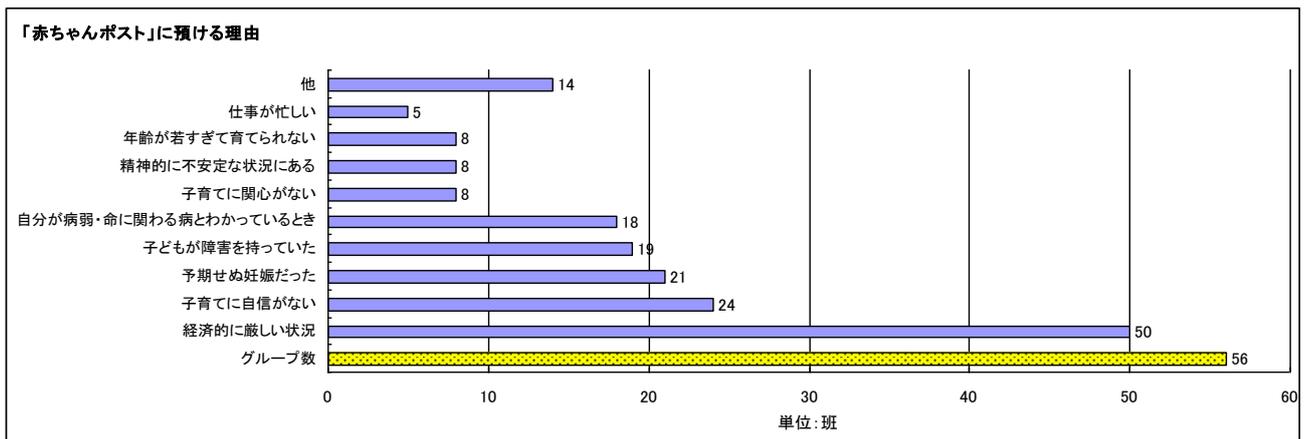
○「赤ちゃんポスト」に預ける状況に関する教師の助言

- ・預ける理由について金銭的理由が多かったため、「単に経済的に困難という理由の人ばかりではないらしい」と伝えた。

○「赤ちゃんポスト」を運営することに関する教師の助言

- ・今ある「赤ちゃんポスト」の設置状況について具体的にどのようなになっているのか、という質問に対して、「屋外から受け入れ窓口の扉を開けると保育器が設置されていて、赤ちゃんが入るとセンサーが感知し院内にブザーで知らせるしくみになっている」と説明した。
- ・「赤ちゃんポスト」には何もメッセージはないのか、という質問に対して、「もう一度引き取りたいと思ったら連絡してほしい」というメッセージがあることを説明した。

全56グループがまとめた意見を内容別に集計すると、次のようになった。



「赤ちゃんポスト」に預ける理由としては、50グループが「経済的に厳しい状況」を挙げた。また、「赤ちゃんポスト」を運営するとしたら、「預ける場合の意思確認を行う」ことや「匿名はやめる」ことを挙げたグループが多かった。

エ グループ討議後の考え方や意識の変化について記述する

「グループで話し合いをして、代表者の発表を聞いた後で、あなたは『赤ちゃんポスト』の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう」という問いに対しての生徒の記述には次のようなものがあった。

○「賛成」とした生徒の記述

- ・やっぱり私は命よりも大切なものはない！と思うので、ポストは必要だと思います。もちろん、産んだ親には責任があるから育てるべきだと思うし、実の親から愛情を注いでもらうのが一番よいとは思いますが、世界には色々な人がいて、それぞれ事情がある場合もあるから、命を守ることが優先だと思います。もし金銭の問題など、ある程度最初から分かっていることは、子どもをつくる前に自分の状況を考え責任を持って行動してほしい!!

○「反対」とした生徒の記述

- ・大人は育てられないとか子どもがほしいとか都合がよいかもしれません。しかし、子どもの立場から考えてみると本当の親に捨てられた、裏切られたと思うってしまうと思うし、一生大きな傷として残ってしまうと思います。また、血がつながっていないければ里親を親だと思えない子もいると思います。子どもの幸せを一番に考えるなら、私は反対です。

生徒の意見の多くに、「赤ちゃんポスト」の賛否に関わらず「人命尊重」を最優先し、子どもの幸せを願う気持ちには共通するものがみられた。賛否を決めた要素として、「命」や「子の幸せ」がキーワードとなっていた。

オ 振り返り

「生命の尊重」という道徳的価値についての考えを深めさせるため、「あなた自身が親となったとき、どのように子どもと接しようと思いますか。『命の尊さ』という視点から、今の自分の気持ちを自由に書きましょう」という問いを与え、各自に記述させた。その記述の多くは、「親として子どもに対して愛情を持って育てていきたい」「いろいろな体験をさせながら、命の大切さを教えていきたい」「自分の産んだ子供は何があっても自分で責任を持って育てていくのはいけない」などの決意であった。生徒の記述には次のようなものがあった。

○生徒の意見

- ・僕が親になったらまずよいことと悪いことの判断力を身に付けさせると思います。子どもの頃はまだ言葉もわからないと思うけど、そこはしっかりと教えていきたいです。この授業を通して命の大切さや尊さなどいろいろなことを改めて思い知らされました。今までの考えや思っていたことがグループで話し合うことで新たな意見が加わり、いままでの考えや思いが少し変わった気がします。これから生きていく中でいろいろ思うことはあると思うけど、命だけは大切にしたいです。
- ・すごくかわいがってしまう気がします。産まれてきてくれた命をしっかり守りたいです。今生きていて自分たちがひとつの命を産むって考えると、本当にすごいことだなと思いました。その命を捨ててしまう人にびっくりします。たくさんの愛を注いでいきたいと思います。自分も両親から愛情をたくさんもらってきました。なので、自分の子どもにも愛を注いでいきたいです。ダメなことはダメと叱ってあげられる親になることが理想です。まだあまり想像はできませんが楽しみです。

(2) 事前・事後アンケートからみた心の変化（資料8）

事前アンケートは、「命」「生命尊重」「人間愛（人との関わり）」「子どもに関する社会問題」について

て記述方式で実施した。

事後アンケートは、事前アンケートと同じ「命」「生命尊重」「人間愛（人との関わり）」について単元の学習前後の生徒の考えの変化を調べることとした。また、「グループ討議」に関する項目を追加した。

ア 「命」について

「(1) 『命』からイメージすることは何ですか」の問いに対し、事前アンケートでは「生きること」「生きていること」「かけがえのない大切なもの」「無くてはならない尊いもの」「一つしかなく守るべきもの」と答えた生徒が多かった。

事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

○心の変化が高まったと答えた生徒の考え

- ・大切であるということに変わりはないけど、「育てる」側から考えると責任が必要になるものだと思った。
- ・人と人をつなぐもので、何よりも大切。
- ・何よりも大切なものと思っていましたが、それに加えて、皆で守っていくものだと思うようになりました。

○あまり心の変化がないと答えた生徒の考え

- ・やはり命は大切。自分の命は自分で守る。自分の産んだ命も自分で守る
- ・大切なもの。それは変わらないと思う。でも命は自分だけのものではないと思う。
- ・命があるから楽しいことや悲しいことを感じることができる。

「命」が大切なものであることは理解ができている。大切なものであるためにどのようにそれを守り育てるのかという、将来に向けた生徒たち自身の課題も発見したように思われる。

イ 「生命尊重」について

「(2) 『生命尊重』とはどういうことだと思いますか」の問いに対しては、事前アンケートでは「重視するもの」「軽く考えず粗末にしないこと」と答えた生徒が多かった。

事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

○心の変化が高まったと答えた生徒の考え

- ・尊重しようという考え方と、どんな時でも思いやって個々を大切にしていこうとする行動が大切だと思った。
- ・生命は子どものものであれ、おとなのものであれ平等に尊いものだと思います。
- ・生命が第一ということではなく、一つの命に対してよく考えなければならないことだと思うようになりました。

○あまり変化がないと答えた生徒の考え

- ・生命尊重とはどこに住んでいる誰でも、平等な命の重さがあり、尊重すべき存在だと思う。
- ・生まれたすべての生命はとても尊いものだから、すべての生き物が自由を持ち、自分のために生きればよいと思う。そして、他の人のために余裕ができたならサポートしてあげる。
- ・前よりもっと命を大切にしたいと思った。

生徒の記述から、自分だけではなく、誰でもが等しく大切な命であり、「命」を互いに思いやる気持ちや行動の必要性を感じたことが分かる。

ウ 「人間愛」について

「(3)『人間愛』とはどのようなものだと思いますか」の問いに対しては、事前アンケートでは「人とのつながり」「人を思いやること」「人に優しくすること」「人を愛すること」と答えた生徒が多かった。事後アンケートから見られる心の変化の例を示す。

- 生徒の心の変化が高まったと答えた生徒の考え
- ・人と人が協力し合い生まれるものであるが、そういう場合でない時も些細なことでも気遣う環境があることによって生まれるものでもあることが分かった。
 - ・人は誰かから愛されることで生きていることを実感できるのだと思いました。
 - ・愛情があって育った人は、また誰かに愛情をあげられると思う。
- 心にあまり変化がないと答えた生徒の考え
- ・親や友達に愛情をもらったり、与えたりできるのは実はとてもすばらしいことだと思った。
 - ・人は愛がなければ心も体も成長できないから、とても大切だと思う。
 - ・人間愛が生まれるかどうかは、その人が育ってきた環境により変化が出てくる。

事前アンケートと比較すると、それぞれの言葉に対し、表現方法に変化が出てきていることから、新聞記事を読み、人の意見を聞いていく過程で、生徒自身のなかに心を揺さぶられるような心の動きがあったと判断できる。また、「愛」の考え方や表し方は生育環境によって変化することに気付いたようである。

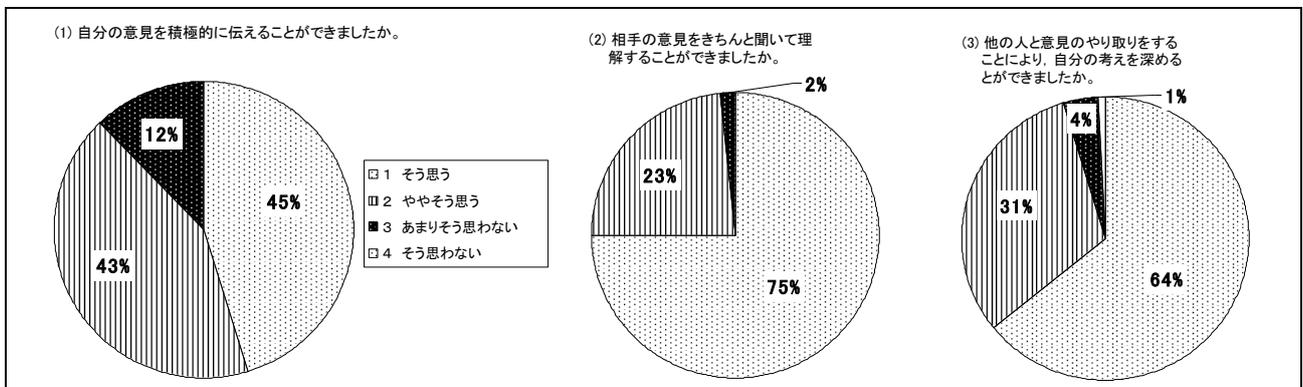
エ 「子どもに関する社会問題」について

社会問題に関する事前アンケートでは、「いじめ」「虐待」「待機児童」が多く、「赤ちゃんポスト」をあげた生徒は、246人中7人であった。テレビや新聞等によく話題になっている問題を挙げた生徒が多かった。

オ グループ討議について

グループ討議に関する事後アンケートでは、「自分の意見を積極的に伝えることができましたか」という問いに対して 88%の生徒が肯定的な回答をした。また、「相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか」という問いに対して 98%の生徒が肯定的な回答をした。さらに、「他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか」という問いに対して 95%の生徒が肯定的な回答をした。

事後アンケート グループでの話し合いについて



「他の人と意見のやり取りをする場合の大切なこと」についての質問では、「互いの意見を否定せず尊重し理解する」「人の意見は最後までしっかり聞く」と書いた生徒が多く、グループ討議、全体発表、振り返りにより、他の人の意見から学ぶ態度が見られた。

7 成果と課題

(1) 実践の成果

ここでは、道徳的視点から見たそれぞれについての成果と考えられる点について記述する。

ア 「生命の尊重」について

生まれた命を大切に、愛情を持って育てることが必要であるという考えを前提とし、「命」をつくり出すことへの責任や、親としての子を守り幸せにするための使命感を持つことの必要性を認識できたようである。

また、保育の学習において「生命の尊重」を取り上げたことから、親としての命、子の命の大切さと、その命を守るための責任をどのように果たす必要があるかを考えさせることができた。

イ 「人間愛、思いやり」について

今回の授業を通し、親としての責任の重大さに気づき、自信をもって子育てができるまでには多くの事を学ぶ必要があることを知ったようである。その中に、親としての子どもへの関わり方や接し方に関し、愛情が特に大切であることを確認した生徒や発見した生徒が多かった。また、自分がこれまで親の愛情を受けたことへの感謝の気持ちを表現した生徒もいた。

また、里親の愛や、赤ちゃんポストを運営する人たちの愛についても考えることができた。単なる思いやりだけでは、人の命を守ることはできない大変貴重な愛であることを理解した生徒もいた。

ウ 「個性尊重、寛容・謙虚」について

グループ討議や発表の中から、いろいろな人の意見や考えを生々の声で聞くことができ、自分では発見できなかったことや思いもしなかったことなどに気付かされ多くの収穫があったようである。振り返りや授業の感想を見ると、人の意見を前向きに捉え、自分の意見を深めることができたように思われる。「人の意見を聞く機会や、論議できるような学習を増やしてほしい」というものもあった。自分の狭い考え方の中で結論を出すのではなく、人の意見を素直に受け入れ判断し、自分の意見と併せて結論を導き出すことの大切さに気付いた生徒も多く見られた。

(2) 今後の課題

ア グループ討議・発表に関する課題

今回のグループ討議を10分とし、発表時間を授業終了までの可能な限りの時間を当てたが、すべてのグループの発表ができなかった。人の意見を聞くことは大事なことであるとともに、自分の考えをより深めることにもつながる。特に、反対の意見については自身の中の考えと比較思考するには大きな意味があったため、発表の時間は十分に確保することが必要であった。

また、グループ討議時において、グループ討議や発表時間中の観察から気付いたことは以下のとおりであり、課題でもある。

- ・記録者がメモをとるのに忙しいようであった。
- ・話し合いの時間が少ないようであった。
- ・時間の関係で全ての班の発表ができなかったため、意見が最後まで聞けなかったことに対して残念に思っている生徒もいた。
- ・最初の発表者によって全体的にしまりのない発表になってしまった。
- ・話し合いに取り掛かるまでに時間がかかり、意見を出し合うころには話し合いの終了時間となってしまう、十分にまとめられない班もあった。
- ・反対意見が一人の場合、強く発言できない場合が見受けられた。押しの強い生徒のペースで討論

が進んでいくグループもあった。

- ・調子に乗って、緊張感がないグループもあった。

イ 単元全体を通しての課題

今回のグループ討議で使用した教材は、「保育」の単元における重要なテーマを含み、自分の考えや人の意見を聞くことで、いろいろな考えや発想があることを学ぶよい機会となった。

「赤ちゃんポスト」の教材から、産まれた、授かった「命を守る」という究極的観点で道徳的思考を評価すれば、これに関しては意識が高く重要性が認識されており、学習目標は達成できたと言える。しかし、一部の生徒の意見にもあったが、家族計画の段階から「命」は考えるべきものであり、親としての「命」に対する責任についても改めて考えさせることが教科としての課題である。

保育の単元で「命」を取り上げる場合、親になったことを前提とした学習を展開するが、単元の目標に関する知識を身に付けさせるだけでなく、その知識を生かすために必要な情報を集めさせ、いろいろな立場の人がどのような意見や疑問を持っているか知り、自分の考えを深めることができる活動の更なる工夫が必要である。

8 おわりに

「家庭基礎」の学習内容の中に指導資料「明日を拓く」を活用した授業を試みたことで、生徒は今まで自分では気付かなかったことや、知らなかったことを人から聞いたり、知らされたりして、自分のものの考え方や見方に偏りがあることを発見できたり、考えを深めたり、意欲的に物事を考えるきっかけとなるなど、前向きな思考ができるようになったようである。

家庭科は、道徳的視点で物事を考えたり、判断したりする学習内容が多いが、道徳を意図的に意識した授業展開をすることはなかった。生徒は、生育環境を基に思考・判断するため、自己の考えに固執し狭い経験や少ない情報の中で判断をすることが多い。今後は今回のように、道徳的視点と言語活動を取り入れつつ、教科の学習が実生活におけるさまざまな状況を適切に判断した行動に結び付くような指導の在り方について研究していきたい。

また、指導資料「明日を拓く」の資料やワークシートは、学校の実態・扱う教科・単元に合わせて自由に編集し直して使用することができるため、道徳的視点を踏まえた単元構想・授業展開を工夫することで効果的に教科の中で活用することができる。部分的使用でも道徳的視点での学習は可能であるため、今後も有効に活用していきたいと考えている。

参考文献等

- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年 3 月公示

【ねらい】 乳幼児にも「生存権」があることを知り、命の尊さについて考えることができる。

1 「生存権」に関連する法律や条約である。() に語句を入れよう。

- 「日本国憲法」第25条 [(), 国の社会的使命]
 - ① すべて()は、健康で文化的な最低限度の生活を営む()を有する。
- 「児童福祉法」第一章 総則
 - 1 すべて国民は、児童が()とともに健やかに生まれ、且つ、()されるよう努めなければならない。
 - 2 すべて児童は、ひとしくその()を保障され、()されなければならない。
- 「子どもの権利条約」第6条

締約国は、すべての児童が()に対する固有の権利を有することを認める。
 締約国は、児童の()及び()を可能な最大限の範囲において()する。

2 「赤ちゃんポスト」に関する記事を読み、考えてみよう。

(1) 資料1を読んであなたはどのように思いましたか。

(2) 実の母親と里親のそれぞれの立場で考えてみよう。

① **実の母親**が「赤ちゃんポスト」に預けた時の事情と気持ちは、どのようなものだったと思いますか。

② **里親**がその子に血のつながりがないことを伝えるときには、どのような気持ちになると思いますか。

(3) 資料2を読み、あなたは「赤ちゃんポスト」の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう。

賛成

理由

反対

(4) グループでの話し合いの内容や代表者の発表についてメモしておこう。

(5) グループで話し合いをして、代表者の発表を聞いた後で、あなたは「赤ちゃんポスト」の存在についてどのように思いますか。賛成、反対の文字のどちらかを○で囲み、そう判断した理由を書きましょう。

賛成

理由

3 **【課題】** あなた自身が親となったとき、どのように子どもと接しようと思いますか。「命の尊さ」という視点から、今の自分の気持ちを自由に書きましょう。

自己評価をしてみよう

A : できた (思う) B : 普通 (わからない) C : できない (思わない)

- 1. 興味関心をもって学習に取り組むことができた。 A B C
- 2. 学習目標が達成できた。 A B C
- 3. ワークシートの記入が時間内にできた。 A B C
- 4. 今後の生活に生かすことができる。 A B C
- 5. グループでの話し合いに積極的に取り組むことができた。 A B C

学習後の感想

「赤ちゃんポスト」司会進行用（グループ内の名簿番号が一番早い人）

司会者	組	番	氏名
-----	---	---	----

1 赤ちゃんポストの是非について賛成か反対を言ってから、その理由を述べて下さい。
（発表は、自分から右回り）

賛成 _____ 名
<理由>

反対 _____ 名
<理由>

2 「赤ちゃんポスト」の是非については分かれましたが、あなたが
(1) 「赤ちゃんポスト」に預けるのはどんな状況の時だと思いますか。（発表は、自分から左回り）

(2) 「赤ちゃんポスト」を運営するとしたら、「赤ちゃん」の受け入れについてどのようなことを考えて運営していこうと思いますか。（最初に当たらなかった人から右回り）

(3) その他意見や疑問はありませんか。

3 「赤ちゃんポスト」の在り方について、グループの意見をまとめます。
（1～2の意見を集約し、グループ内の人に口頭で確認する）

「赤ちゃんポスト」記録・発表用（グループ内の名簿番号が一番遅い人）

私たちのグループの発表をします。

記録者： 組 番：氏名

- 1 赤ちゃんポストの是非については、
賛成は_____人で、
賛成と答えた人の理由は

などでした。

- 反対は_____人で、
反対と答えた人の理由は

などでした。

- 2 「赤ちゃんポスト」に預ける場合の状況としては、

という意見が出ました。

- 3 「赤ちゃんポスト」を運営する側としての意見は、

という意見が出ました。

また、

などの意見や疑問点もありました。 以上です。

グループ構成(氏名) をここに記入する

「保育」事前アンケート

組 番 氏名

(1) 「命」からイメージすることは何ですか。箇条書きにしてみよう。(言葉・文章でも良い)

--

(2) 「生命尊重」とは、どういうことだと思いますか。

--

(3) 「人間愛」とはどのようなものだと思いますか。あなたがイメージすることを箇条書きにしてみよう。

--

(4) 親は子どもにとってどのような存在だと思いますか。そのように結論付けた理由も書いてみよう。

--

(5) 子は親にとってどのような存在だと思いますか。そのように結論付けた理由も書いてみよう。

--

(6) 人との関わりの中であなたが特に気にしていることは何ですか。

家族に対して：

家族以外の人に対して：

(7) 子どもに関する社会問題には、何がありますか。あなたの知っていることを箇条書きにしてみよう。

「保育」事後アンケート

組 番 氏名

※質問について、【 】内の1～4のうち当てはまるものを○で囲んでください。

1 「赤ちゃんポスト」の学習から、

(1) 「命」からイメージできることは変わりましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今あなたが「命」からイメージすることを書いてください。

--

(2) 「生命尊重」について、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(3) 「人間愛」について、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(4) 親は子どもにとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

(5) 子は親にとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

今のあなたの考えを書いてください。

--

2 グループでの話し合いについて

(1) 自分の意見を積極的に伝えることができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

(2) 相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

(3) 他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか。

【 1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 】

(4) 他の人と意見のやり取りをする場合、何が大切だと思いましたか。

--

【事前・事後アンケート集計結果】

		事後アンケート		1 「赤ちゃんポスト」の学習から	
アンケート項目	事前アンケート	グラフ		心の変化	
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない
(1) 「命」からイメージできることは変わりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生きること・生きていること ・かけがえのない大切なもの、無くてはならない尊いもの ・1つしか無く守るべきもの ・いつかは消えるもの ・父母がくれたもの、続いていくもの ・人間、動物、植物、生きているものすべて ・子ども、赤ちゃん ・お金では買うことができないもの 		<ul style="list-style-type: none"> ・大切であるということに変わりはないけど、「育てる」側から考えると責任が必要になるものだった。 ・恵まれた環境にいるからこそ無駄にはできないものだと思う。 ・人と人をつなぐもので、何よりも大切。 ・親からの愛情 ・生きること ・ただ生きているだけではなく満たされている状態。 ・一つの命が大人になるまでの道のりは厳しいなと思いました。 ・何よりも大切なものと思っていましたが、それに加えて、皆で守っていくものと思うようになりました。 ・命が絶たれてしまう命があるということは考えたことはありましたが、「赤ちゃんポスト」を利用することで繋ぐ命があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり命は大切。自分の命は自分で守る。自分の産んだ命も自分で守る。 ・大切なもの。それは変わらないと思う。でも命は自分だけのものではないと思う。 ・命があるから楽しいことや悲しいことを感じることができる。 ・一番大切なもの。 ・一生に一度、失ったら取り戻せない。言い方悪いけどたった1つの消耗品。 ・子どもも大人も命の重みは一緒なわけだから、産んでポイはいけないうし、簡単にみてはいけないうし。 	
(2) 「生命尊重」について、あなたの考えに変化がありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・重視するもの、最優先されるもの ・命を軽く考えず、粗末にしないこと ・人権があること ・生きること、生きる権利 ・他者の命を大切にすること ・生まれたことに感謝し、心身ともに健康を維持すること 		<ul style="list-style-type: none"> ・尊重しようという考え方や、どんな時でも思いやって個々を大切にしていこうとする行動が大切だと思った。 ・今までよりももっと命は守られるべきものだと思うようになりました。 ・簡単な気持ちで命を放棄してはならない、大切にすべきものだと思う。 ・生命は子どものものであれ、おとなのものであれ平等に尊いものだと思います。 ・無駄な命は1つもない。 ・無勝手な親が子どもを産んで、その命を虐待とかで無くしてしまうのではなくて、せつかく生まれた命をもっと大切にすべき。 ・どんな事情があっても、命は捨ててはいけないうし、つなげて行かなくてはいけない。 ・命にはいろいろな可能性が有るから尊重すべき。 ・死なないための生命尊重だと思っていただけ、生きるために生命を尊重するのだと思いました。 ・生命が第一ということではなく、一つの命に対してよく考えなければならぬことだと思うようになりました。 ・生まれたくても生まれられなかった子もいるから自分の命は大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命尊重とはどこに住んでいる誰でも、平等な命の重さがあり、尊重すべき存在だと思う。 ・生命ははかない。はかないからこそ尊い。 ・何があっても人には手をあげてはいけないうし。 ・生まれたすべての生命はともにも尊いものだから、すべての生き物が自由を持ち、自分の為に生きれば良いと思う。そして、他の人の為に余裕ができたらサポートしてあげる。 ・自分の命も相手の命も、他の動植物の命も大切に思うこと。 ・命は大切であり、命が最優先である。ムダな命なんてない。 ・だれにも奪うことの許されないもの。 ・虐待やいじめ、自殺をしてはいけないうし。 ・尊重されるべきだと思うけど、自分の命も大切にすべき。比べられるものではない。 ・やっぱり命は大切にすることで、赤ちゃんとかまだ弱い立場の子たちを守っていかないとはいけないうし。 ・その命に対する思いやりや、生きるために必要なことを周りがサポートすること。 ・前よりもっと命を大切にしたいと思った。 	
(3) 「人間愛」について、あなたの考えに変化がありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながり ・人を思いやること、優しくすること ・人を愛すること ・人を認め、わかり合うこと ・家族愛、親子愛、兄弟愛、自愛 ・人にしかできないこと 		<ul style="list-style-type: none"> ・人に愛を注いで接することは簡単そうに見えてとても難しい事だと思った。 ・人と人が協力し合い生まれるものであるが、そういう場合でない時も些細なことでも気遣う環境があることによって生まれるものもあることが分かった。 ・「赤ちゃんポスト」で子どもを引き取った夫婦みたいな人が人間愛にあふれた人だと思った。 ・実母でなくても、自分が息子のように愛情を注ぐことができる人は素晴らしいと思う。 ・子どもを見捨てる親の気はしれないと思っていたが、たくさん悩んでいるんだと思った。 ・育てたくても育てられない子どもを施設に預けるということも愛情の一つだと思う。 ・他人の愛に触れることで優しい気持ちになり、自分も愛を持って接したいと思う。 ・赤ちゃんを育てられない環境にあったときに、他の人が育てるといった所に人間愛を感じた。協力することが人間愛。 ・ポストに預ける人は、人間愛というものが無いと思う。 ・たとえ血が繋がってなくても、人はみんな家族になれると思った。 ・親子の愛や友人同士の思い合い、生きている人、死んでしまった人でも思い続けることだと思う。 ・人は誰かから愛されることで生きていることを実感できるのだと思った。 ・人を愛し育てていくことは、自分にとっても大切な事だと思う。 ・人間の間には、男女の愛、親子の愛、友人への愛など、形は違っても、想う強さはその愛も等しく強いものだった。 ・愛情があつて育った人は、また誰かに愛情をあげられると思う。 ・人は必ず人を愛する訳ではないとおもうけど、人は無償で人を愛することもできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信じるのが第一。 ・思いやりの心を持つことが大切。 ・愛の注ぎ方にはいろいろあると思った。 ・親や友達に愛情をもらったり、与えたりできるのは実はとても素晴らしいことだと思った。 ・子どもや大切な人の周りの環境を整えることも人間愛だと思う。 ・誰でも愛することができる人はなかなかいないと思いました。 ・日本は災害が多いからよく人間愛を感じる。 ・人は愛がなければ心も体も成長できないから、とても大切だと思う。 ・人間同士の仲間意識。 ・人間愛が生まれるかどうかは、その人が育ってきた環境により変化が出てくる。 ・あれば幸せ、無ければあまり幸せにならないと思う。 ・大切に思うこと。愛を感じる。これらの感情が生まれながら持っている人間として生きなければならない。 ・人に対して何かして助けてあげたいと思う気持ち。 ・親子、友人など、いろいろな関係があるけど、人と人との関わりには変わりないから大切にしていきたい。 	

事後アンケート		1 「赤ちゃんポスト」の学習から					
アンケート項目	事前アンケート	グラフ				心の変化	
		1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	高まったと答えた生徒の考え	変化がないと答えた生徒の考え
(4) 親は子どもにとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 頼れる、必要な存在 生きるための手本であり、目指すもの 生活の世話をしてくれる人 絶対的な存在 理解者 尊敬する、信頼する、感謝する存在 					<ul style="list-style-type: none"> 自分を育ててくれた一番感謝しなくてはならない存在。 いろいろな責任を負っている。 憧れであったり、いつも自分の味方してくれるかけがえのない存在。 本当に大きな存在で、親がいるからこそ生きていられる。 子どもを愛してくれる存在。 虐待で殺してしまう親もいるし、すごく大事にする親もいる。だから、必要とされる親とっていい親がいなくて生きていけるような必要とされない親もいるのだと思う。 親は手本となり親によって子どもの性格などに影響が出ると思う。 子どもにとって世界の中心。 実の親でなくても愛情を注いでくれるのが本当の親。 親は子どもにとって正しい存在でもあるし、悪い存在にもなること。 親の愛情があるかないかで自分の人生が大きく変わる存在。どのように育てられたかで親への気持ちも変わる。 自分の生きる道を後押ししてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 無くてはならない存在、やっぱり大切だとわかった。 親は子どもの目標であり、手本である。親は重大な責任がある。 産み育ててくれたすばらしい存在。 今も前も親は唯一の存在で、いなくなったらすごく悲しむと思う。 親の影響を受けて育つと思うので、見本になる存在。 子どもが安心できる場所。 かけがえのない存在。 親が子に愛を注ぐことで子は人間として成長していけるのだと思う。 自分の成長を見守ってもらう存在。 今の自分があるのは両親がいてくれるからこそだから、本当に感謝したい。 生きていく上で必要な存在。
(5) 子は親にとってどのような存在か、あなたの考えに変化はありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> 大切なかけがえのないもの 守るべきもの 宝物 生きがい 喜び、かわいい存在 					<ul style="list-style-type: none"> 自分で育て、成長していく姿が生きがいとなる存在。 一番の宝物。 自立するまで支える人。 自分の命よりも大切なもの。 守らないといけない存在だと思いましたが、それだけではなく、子どもが成長する上で良い環境を与える責任があると思いました。 本当の親でなくても、いてくれるだけでホッとする暖かいもの。 生きるための希望を与えてくれる人。 時に苦しみ、時に幸せにする存在。 自分の子であってもなくてもきちんと育てる義務があると思った。 大切な存在だと思っていたけど、苦しめる存在になる場合もあるのかなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 可愛い責任も発生する。 自分の命より大切。命をかけて守るべき存在。 無くてはならない大切な存在。 子の成長を通して、感動させられる。親も子から何かを学んだりする存在。 子どもがいるから頑張れることもある。 実親にとっては宝物。血が繋がっているといまいと、引き取った人からすれば宝物だと思う。

「保育」事後アンケート 2 グループでの話し合いについて

	(1) 自分の意見を積極的に伝えることができましたか。	(2) 相手の意見をきちんと聞いて理解することができましたか。	(3) 他の人と意見のやり取りをすることにより、自分の考えを深めることができましたか。
1 そう思う			
2 ややそう思う			
3 あまりそう思わない			
4 そう思わない			

(4) 他の人と意見のやり取りをする場合、何が大切だと思いましたか。

- 互いの意見を否定せず尊重し、理解する
- 人の意見は最後までしっかり聞く
- 自分の意見をしっかり言う
- 積極的に話し合いに参加する
- 共通点を探す
- 人の意見をしっかり聞き、自分の意見との違いについて考える
- コミュニケーション能力
- 発言しやすい雰囲気

(6) 人との関わりの中であなたが特に気にしていることは何ですか	<p>①家族との関わりで気にしていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 気を遣うことなく、本音と言える 感謝 助け合うなどの思いやり 心配をかけない。迷惑をかけない 家の中の役割に対し責任をもつこと 自分らしくあること あいさつをする <p>②家族以外の人との関わりで気にしていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いや接し方 相手の気持ちを考える 思いやりをもって接する 笑顔で接する 自分の内面を見せない 相手の良いところを見つける 人にあった会話や雰囲気を作る あいさつ、お礼を言う 約束を守る
(7) 子どもに関する社会問題には、何がありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> 虐待 いじめ 育児放棄 少子化 待機児童 非行・犯罪 赤ちゃんポスト 児童就労